

第7回 在宅医療とみんながつながる会

ご報告

開催日時：平成26年10月22日(水)18:30~20:30

会場：仙台サンプラザホテル

内容

【情報提供】

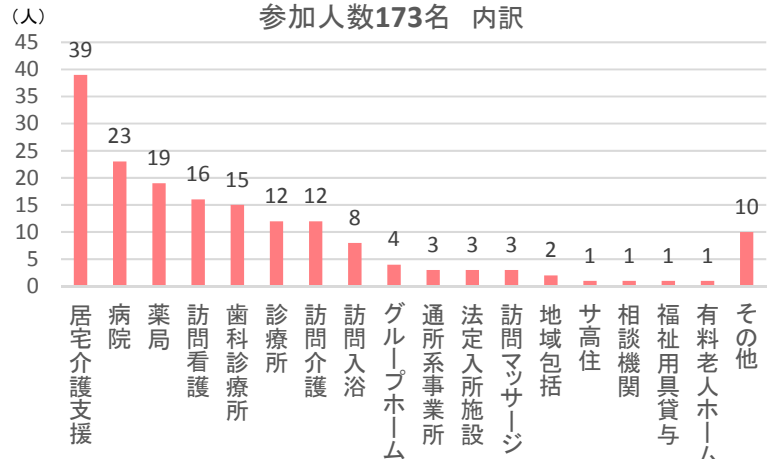
「つながライン」について

【講演】

「生きることの集大成を叶える在宅医療」
仙台往診クリニック 院長 川島 孝一郎

【情報交換】

ティータイム キーワード「今日の講演を聞いて」



みなさま、お仕事帰りの疲れている中、おいていただきまして、本当にありがとうございます！



県医療社会事業協会八重樫様に、開会のご挨拶を頂戴しました！



自分が経験できるのは、死ではなく生きている今です。どう死ぬかではなく、どう生きるかが大切です。



ティータイム、盛り上がりました。時間が足りなかったとの声多数。次回はもう少し長く時間を取りたいと思います！



「ご自由にお持ちくださいコーナー」好評でした。次回皆様からの情報持込みお待ちしております！

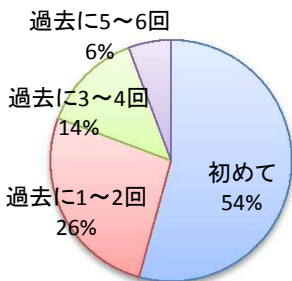


にしむすびの大沼様に、開会のご挨拶を頂戴しました！

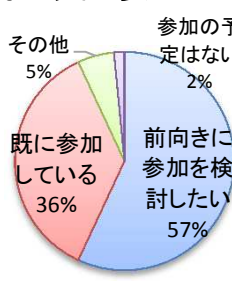


当日アンケート結果(抜粋)

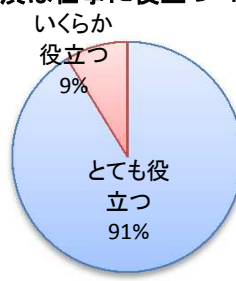
参加回数 n=140



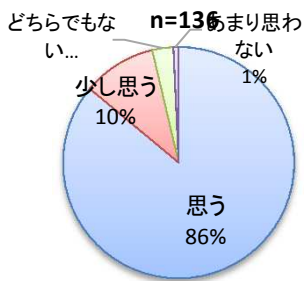
つながライン参加 n=130



講演は仕事に役立つ n=137



ティータイムは連携に役立つ n=136



「生きることの集大成を叶える在宅医療」を聞いて

ティータイムの時間について

病気や障害の部分だけでなく、生きることの全体を支えることの大事さを学んだ。	最後までどう生きるかが大切。亡くなるまでのプロセスとその間の本人と家族の思いのちがい。大変勉強になりました。	自分の考え方を変える良い機会でした。充実した在宅医療の実際のケースを聞くことができ、勉強になりました。考え方ひとつで、余生を満足に過ごすかどうかが決まるのだと思いました。	医師含め、患者と係る方々は、患者が意思決定をできるまできちんとした情報提供をしなければならぬのはあたり前ですが、むずかしいことだと共感させて頂きました。	Drの説明が大切だと思うが、口ベタのDrの場合是一緒にいる看護師のフォローもして、Faと生活者が理解しているかも確認することは必要だと思います。	死をどう考えるかに重きを置きました。が、「生」をどう生きていくかを重視していく必要がある。	ICFの考え方が良く分かりました。地域で支える体制を作っていくためにネットワークを作っていく事が大切だと思いました。	生活機能をケアとして考えた時は難しいと感じたが、「こういう生活ができれば満足そう」という家族目線や自分がどう生活して楽しいかという目線にかえると、色々な見方ができると思った。	多職種の方の事業所内容を知ることができて良かった。今後の連携につなげられたらと思う。	職種が違う方々の話や、同職種の方々の意見が聞けて参考にもなり、励みにもなりました。
---------------------------------------	--	---	--	--	---	--	---	--	---